

林桂

新人賞、奨励賞に応募の10作品を1組とする名前を伏せられた42編の応募作を対象に、改めて読み込んで選考を行った。10編を選出し、特に強く推す1編は特選とするという条件での選考である。選考委員の過半数以上が推薦する作者を奨励賞とし、その1位を新人賞とする。

再読して、10編の内に佳作として推せる作品がいくつあるかで、まず順位付けをすることとした。半数の5作品以上を佳作とするものが9編あり、そのまま推薦作品に残した。残る1編を、4作品佳作とする8編の内から選ぶこととし、推薦する作品、推薦できない作品を読み比べての総合評価で判断し、1編に絞った。

6作品推薦するものが3編あり、この33編の推す作品、推さない作品を含めての総合評価で行い、1編に絞り特選とした。

ともあれ、すべて僅差で、作者の自選力と選者の判断との微妙な揺れのうちに決まったというべきだろう。10作品を通して、作者像が浮かぶかどうか、最後の判断基準だったように思う。選は一つの方法である以上、避けることのできないものと割り切って選考した。ともあれ、入選を果たした作者を祝福するとともに、惜しくも入選を逃した作者の次回を期待することとした。

以下、林が推薦した10人の佳作を1編ずつ引用して紹介に代えたい。なお、作者名は選後に知ったものである。選考の過程で記憶に残っている作品が何編もあったが、敢えて作者の詮索はせずに選考を行った。

〈特選推薦〉

大野博司（まちりこ） *新人賞

古井戸に投げた小石の音を聞く／空蟬ひろい持ち帰る夏
〈入選推薦（順不同）〉

早川のり

僕の故郷／ハッチポッチステーション

吉田光里（火鯨研） *奨励賞

耳の奥で／雪が降っているような静けさ

鈴木勝也

秋晴れを担いで走る子供らよ

他人が見た夢の話

犬だけは勘付いている／ナンシーが／地球人ではなさそうなこと

藤谷真実子（翠） *奨励賞

米を研ぐとき／わたしは神につかえている

西本友亜（藤色） *奨励賞

雨の日の唐揚げのじゅわ

奎いう子

るるると遊ぶ日もある熱帯魚

登りびと

シャーペンを／振って出てくる夏休み

丸山萌（五味はこ） *奨励賞

三月はキリンもまつ毛まで眠る